

青雲



令和元年度
第12号
令和元年7月12日（金）
日之影町立宮水小学校

今日は、木にまつわる話を ～老子～

P T A新聞第1号（6月18日発行）で紹介されていた校長室のクリムトの絵（「Tree of life」生命の樹）は右の絵です。昨年、中庭の木を全部切りました。木を切ったあと校内で大人の方が足を怪我する事案が続きました。そこで、このクリムトの絵が家にあったことを思いだし、中庭の木があった場所に対峙するようにイーゼルに載せて置いたのです。（それ以来怪我がないので、縁起をかついで、置いたままにしています。）

今日は、大学の頃に読んだ漫画本にあった木にまつわる老子の寓話を思い出したので紹介します。このクリムトの絵となんとなく重なりますし、日之影のあたたかい感じの雰囲気なども重なります。私の忘れられない好きなお話の一つです。



むかし、老子（古代中国の哲学者）が弟子をつれて、旅をしていました。旅の途中、ある村に立ち寄りしました。

村では、木こりたちが、そこら中の木を切っていました。

でも、たった一本だけ、大きな木が残っています。

そこで、老子は、木こりたちにたずねました。

「どうして、その木を切らないのですか？」

木こりたちは答えました。

「こんなに幹が太くて曲がった木は、家具にも家の柱にもなりません。」

「この木は役立たずの木です。」

それを聞いた老子は、弟子たちに言いました。

「いいですか。あなたたちもあの木のように役立たずになりなさい。」と

老子は、弟子たちを連れて、その村を出発しました。

そして、旅の帰りに、また、その村に立ち寄りしました。

村には、あの大きな木が一本残っていました。

その大きな木の下には、村中の人が集まっていました。

そして、その大きな木の木陰で、赤子は母親のおっぱいを飲み、子どもたちは楽しく遊び、若者は愛を語り、大人は読書にふけり、老人はうとうとと気持ちよさそうに昼寝をしていました。

そこで、老子は弟子たちに言いました。

「わかりましたね。あなたたちもあの木のように役立たずになりなさい。」と

<自画像>

8人目の自画像は、甲斐 風河君でした。では9人目はだれでしょう。あと3人になりましたので、更に難しいヒントです。この子のお母さんは、朝、宮水交差点前を延岡方面に向けて、車で通過するので、毎朝あいさつをしています。